

宜野湾市の給与・定員管理等について(令和2年度)

1 総括

(1) 人件費の状況(普通会計決算)

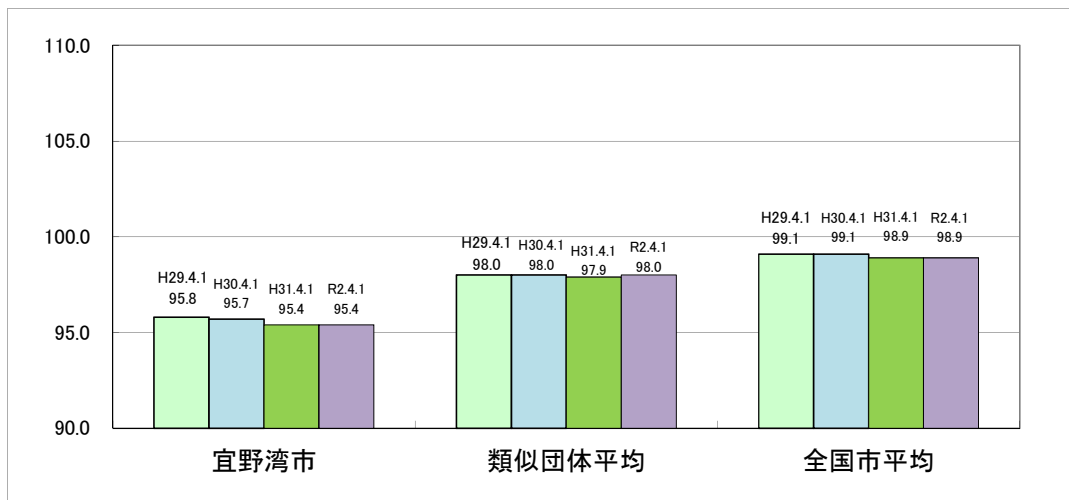
区分	住民基本台帳人口 (令和2年1月1日)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 30年度の人件費率
令和元年度	人 99,678	千円 44,660,484	千円 1,104,698	千円 4,998,318	% 11.2%	% 11.3%

(2) 職員給与費の状況(普通会計決算)

区分	職員数 A	給与費				1人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 1人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
令和元年度	人 633	千円 2,120,182	千円 446,120	千円 843,859	千円 3,410,161	千円 5,387	千円 6,000

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
2 職員数は、平成31年4月1日現在の人数である。

(3) ラスパイレス指数の状況



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数(構成)を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表(一)適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

(4) 給与改定の状況

本市は人事委員会を持たないため割愛

(5) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

① 給料表の見直し

[実施] 未実施] 改定実施時期：平成27年4月1日

(内容) 国、県の見直し内容を踏まえ、全職種の給料表を改定。給料表の水準の平均2%(在職者平均1.6%)の引下げの実施。激変緩和のため3年間の経過措置(現給保障)を実施。

② 地域手当の見直し

該当なし

③ その他の見直し内容

特になし

(6) 特記事項

特になし

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況(令和2年4月1日現在)

① 一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
宜野湾市	40.3歳	294,800円	350,409円	324,525円
沖縄県	41.4歳	311,000円	374,244円	341,287円
国	43.2歳	327,564円	-	408,868円
類似団体	42.3歳	316,603円	377,272円	346,633円

② 技能労務職

区分	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
宜野湾市	52.9歳	7人	348,700円	379,914円	376,414円
うち 用務員	52.9歳	7人	348,700円	379,914円	376,414円
沖縄県	55.6歳	205人	348,200円	388,203円	370,537円
国	50.9歳	2,319人	287,283円	-	328,862円
類似団体	51.9歳	22人	312,578円	339,824円	328,606円

③ 教育職(幼稚園教諭)

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
宜野湾市	40.1歳	322,906円	357,661円
沖縄県	43.3歳	359,200円	403,006円
類似団体	39.5歳	298,585円	328,043円

(注) 1 「平均給料月額」とは、令和2年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。
(注) 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。
また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等を除いたもの)で算出している。

(2) 職員の初任給の状況(令和2年4月1日現在)

区分		宜野湾市	沖縄県	国
一般行政職	大学卒	182,200円	182,200円	182,200円
	高校卒	150,600円	150,600円	150,600円
技能労務職	高校卒	147,900円	147,900円	-
	中学卒	139,900円	139,900円	-

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況(令和2年4月1日現在)

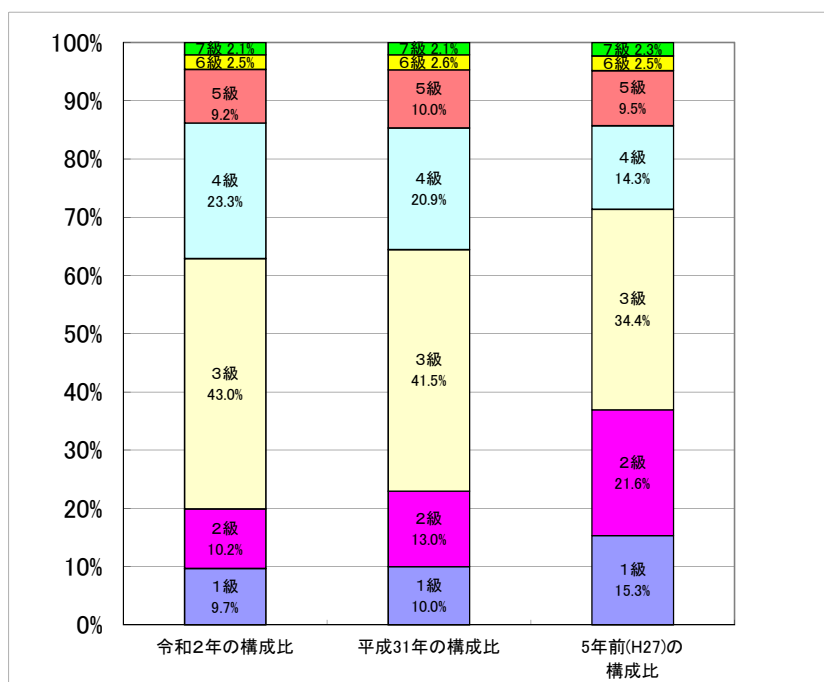
区分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大学卒	251,138円	343,729円	357,850円	387,900円
	高校卒	211,300円	274,417円	322,900円	365,150円
技能労務職	高校卒	-	-	-	-
	中学卒	-	-	-	-
教育職 (幼稚園教諭)	大学卒	-	-	-	-
	短大卒	-	333,400円	362,000円	-

3 一般行政職の級別職員数等の状況

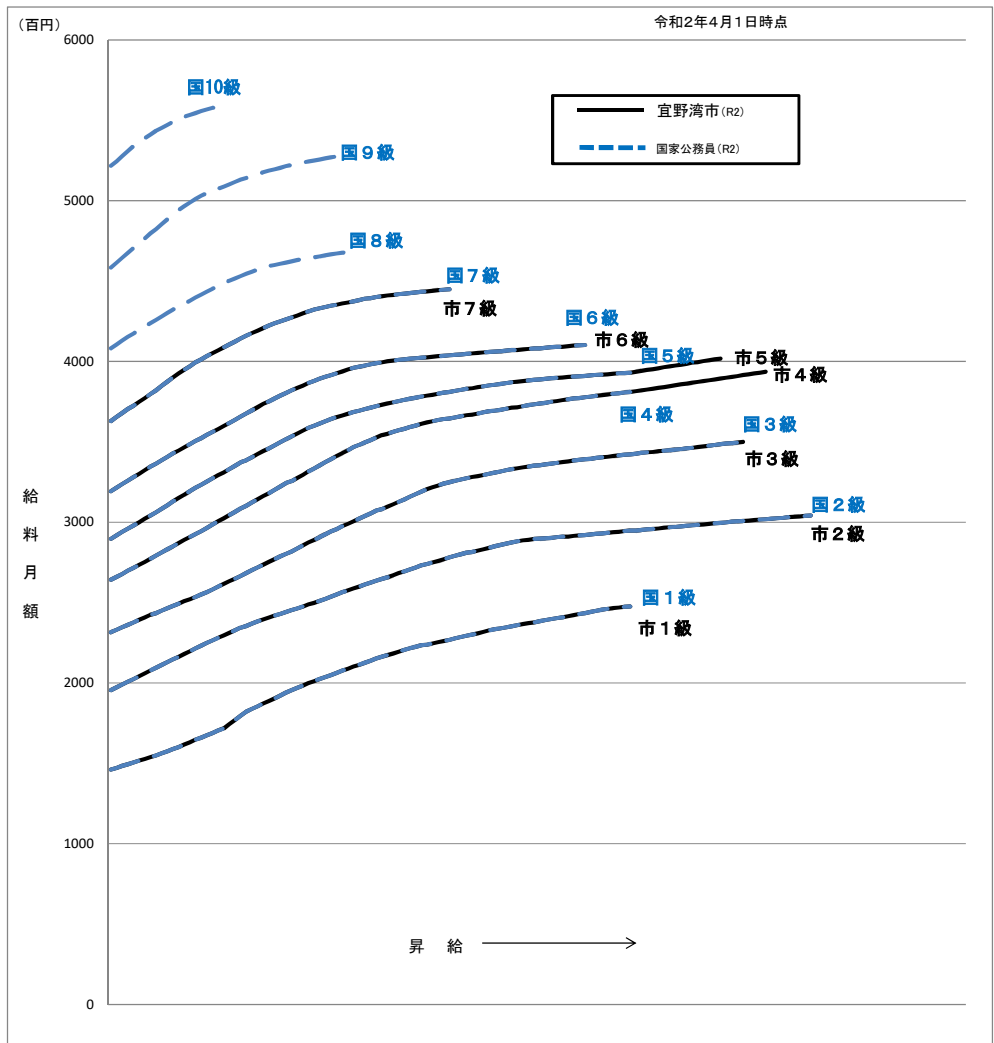
(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況(令和2年4月1日現在)

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
1級	(1) 主事補又は技師補等の職務 (2) 主事又は技師等の職務	42人	9.7%	146,100	247,600
2級	相当高度の知識又は経験を必要とする業務を行う主事又は技師等の職務	44人	10.2%	195,500	304,200
3級	(1) 係長、保育所長、担当主査又は担当技査の職務 (2) 主任主事(技師)等の職務	186人	43.0%	231,500	350,000
4級	(1) 困難な業務を所掌する係長、保育所長、担当主査又は担当技査の職務 (2) 相当高度の知識又は経験を必要とする主査又は技査等の職務	101人	23.3%	264,200	393,600
5級	(1) 課長、所長、室長、館長、主幹及び技幹の職務 (2) 消防本部の所長、署長又は消防司令の職務 (3) 選挙管理委員会事務局の長の職務 (4) 監査委員事務局の長の職務	40人	9.2%	289,700	401,800
6級	(1) 次長の職務 (2) 消防本部の次長又は消防司令の職務 (3) 参事の職務	11人	2.5%	319,200	410,200
7級	(1) 部長の職務 (2) 議会事務局の長の職務 (3) 消防長の職務 (4) 参事監の職務	9人	2.1%	362,900	444,900
計		433人	100%		

- (注) 1 宜野湾市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(2) 国との給料表カーブ比較(行政職(一))



(3) 昇給への人事評価の活用状況

令和2年4月2日から令和3年4月1日 までにおける運用	管理職員		一般職員	
	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分
イ. 人事評価を活用している	-		-	
活用している昇給区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分
上位、標準、下位の区分	-	-	-	-
上位、標準の区分	-	-	-	-
標準、下位の区分	-	-	-	-
標準の区分のみ(一律)	/		/	
ロ. 人事評価を活用していない	○		○	
活用予定時期	令和4年度以降予定		令和4年度以降予定	

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

宜野湾市	沖縄県	国
1人当たり平均支給額(令和元年度) 1,409 千円	1人当たり平均支給額(令和元年度) 1,640 千円	—
(令和元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.85 月分 (1.45)月分 (0.90)月分	(令和元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.85 月分 (1.45)月分 (0.90)月分	(令和元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.9 月分 (1.45)月分 (0.90)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

○ 勤勉手当への人事評価の活用状況(一般行政職)

令和2年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	-		-	
活用している成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率
上位、標準、下位の成績率	-	-	-	-
上位、標準の成績率	-	-	-	-
標準、下位の成績率	-	-	-	-
標準の成績率のみ(一律)	-		-	
ロ. 人事評価を活用していない	○		○	
活用予定時期	令和4年度以降予定		令和4年度以降予定	

(2) 退職手当(令和2年4月1日現在)

宜野湾市			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分	勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分
最高限度額	47.709 月分	47.709 月分	最高限度額	47.709 月分	47.709 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%～20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (割増率2～45%)	
1人当たり平均支給額	1,345 千円	19,742 千円	1人当たり平均支給額	- 千円	- 千円

(注) 1 退職手当の1人当たり平均支給額は、令和元年度に退職した全職種(公営企業職員除く)職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当(令和2年4月1日現在)

制度なし

(4) 特殊勤務手当(令和2年4月1日現在)

支給実績(令和元年度決算)		9,010千円		
支給職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)		56,617円		
職員全体に占める手当支給職員の割合(令和元年度)		24.1%		
手当の種類(手当数)		14種		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績(令和元年度決算)	左記職員に対する支給単価
徴税及び滞納整理手当	納税課及び国民健康保険課に所属する職員	税の徴収又は滞納整理の業務に従事したとき	1,471千円	月額 5,000円
税務手当	税務課に所属する職員	税の賦課又は賦課に関する調査の業務に従事したとき	991千円	月額 3,500円
消防活動手当	消防職員	緊急通報に基づき出動し、火災、救急、自然災害又は事故等による災害救助活動及び火災調査に従事したとき(ただし、1回の出動において2以上の業務に従事したときは、高い方の額のみ支給)	3,689千円	出動1回につき250円 救命措置1回につき300円 はしご車活動1回につき300円 潜水活動1回につき1,000円
精神障害者及び行旅病人取扱手当	健康増進課及び障がい福祉課に所属する職員	行旅病人の救護又は精神障害者の入院措置の業務に従事したとき	-	日額 1,000円
行旅死人取扱手当	生活福祉課に所属する職員	行路死人を取扱う業務に従事したとき	-	日額 3,000円
防疫作業手当	健康増進課及び環境対策課に所属する職員	感染症の(若しくは疑いのある)患者の救護又は当該病原体の付着した物件の(若しくは疑いのある)処理作業に従事したとき	-	日額 290円
		家畜伝染病(口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、低病原性鳥インフルエンザ及びその他規則で定める家畜伝染病に限る。)の病菌を有する家畜又は有する疑いのある家畜の防疫作業に従事したとき	62千円	日額 380円 (規則で定める作業 760円)
		家畜伝染病のまん延を防止するために行う作業(前項の作業を除く。)で規則で定めるものに従事したとき	-	日額 290円
		家畜伝染病(流行性脳炎、狂犬病、炭疽、ブルセラ病及び鼻疽)に限る。)の病菌を有する家畜又は有する疑いのある家畜の防疫作業に従事したとき	-	日額 290円
災害応急作業等手当	建設部に所属する職員	防災計画に基づき、災害現場での巡回監視の業務に従事したとき	-	日額 600円
		防災計画に基づき、災害現場での応急作業又は応急作業のための災害状況の調査の業務に従事したとき	-	日額 910円
		防災計画に基づき、災害現場等で行う災害警備、避難救助又はこれらに相当する作業に従事したとき	-	日額 840円
		上記の各業務が日没時から日出時までの間において行われた場合は、各手当額に定める額にその100分の50に相当する額を加算する。ただし、同一の日において市長が著しく危険であると認める区域で行われた場合は、各手当額に定める額にその100分の100に相当する額を加算する。	-	日額 910円を超えない範囲
福祉事務従事手当	生活福祉課及び障がい福祉課に所属する職員	社会福祉事務に従事又はその指導監督を行うとき	2,594千円	月額 4,500円
特殊現場作業手当	建設部に所属する職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所で行う業務に従事したとき	2千円	日額 220円 (20メートル以上は320円)
		地下又は水面下4メートル以上の深所で行う業務に従事したとき	-	日額 450円
		現に共用している下水道人孔内において業務に従事したとき	-	日額 220円
暴風雨時勤務手当	職員	暴風雨警報発令時から解除されるまでの間において、特に勤務することを命ぜられたとき	466千円	1時間 1,000円
用地交渉等手当	用地課に所属する職員	公共事業の用に供する土地の取得等に係る交渉業務のうち困難な業務に従事したとき	112千円	日額 200円
危険物取扱作業手当	職員	埋設不発弾を発掘する際の立会作業又は発掘されるまでの間に応急作業に従事したとき	-	日額 250円
		サリン等又はその疑いのある物質による被害の危険がある区域内での作業に従事したとき	-	日額 460円
災害時緊急支援活動手当	職員	消防組織法第45条第1項に規定する緊急消防援助隊としての活動に従事したとき	-	日額 3,000円
		上記以外の職員で、被災地等の要請により災害が発生した市町村に派遣され活動に従事した消防職員	-	日額 1,500円
建築主事手当	建築主事	建築主事の業務に従事する職員	240千円	月額 10,000円

(5) 時間外勤務手当

支給実績(平成30年度決算)	151,096千円
職員1人当たり平均支給年額(平成30年度決算)	227千円
支給実績(令和元年度決算)	153,309千円
職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)	228千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(平成〇〇年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(6) その他の手当(令和2年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(令和元年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)
扶養手当	・配偶者 月額 6,500円 ・子 月額 10,000円 ・父母等 月額 6,500円 16歳から22歳の子1人につき5,000円の加算あり	同じ		94,177千円	276,178円
住居手当	借り受けの場合、最高28,000円	同じ		88,450千円	300,850円
通勤手当	通勤距離が片道2km以上から支給 交通機関等利用は定期券等の額を支給。限度額55,000円 自家用車は、距離に応じて2,300円～40,000円支給	異なる	交通機関等利用は、6箇月定期券等による一括支給。限度額55,000円 自家用車は、距離に応じて2,000円～24,500円支給	27,944千円	57,497円
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員に支給 ・部長級 57,000円 ・次長級 47,000円 ・課長級 40,000円	異なる	棒給表別・職務の級別・区分別に応じて定額を支給	38,327千円	517,932円
休日勤務手当	宜野湾市職員の勤務時間、休暇等に関する条例第9条に規定する休日において、正規の勤務時間中に勤務する事を命ぜられた職員に支給。 勤務1時間につき1時間当たりの給与額に125/100～150/100までの範囲内で規則で定める割合を乗じた額	同じ		30,717千円	472,569円
夜間勤務手当	正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給 勤務1時間につき1時間当たりの給与額に25/100を乗じた額	同じ		4,136千円	61,731円
管理職特別勤務手当	管理職員が臨時又は緊急の必要その他公務の運営の必要により休日等に勤務した場合に支給。 勤務1回につき ・部長相当職 10,000円 ・次長相当職 9,000円 ・課長相当職 8,000円	異なる	手当の支給額については勤務1回につき6,000～12,000円	支給実績なし	支給実績なし

5 特別職の報酬等の状況(令和2年4月1日現在)

区 分		給 料 月 額 等		
給 料	市 長	810,900 円 (901,000 円)	(参考)類似団体における最高/最低額 1,000,000 円 / 454,500 円	
	副 市 長	667,800 円 (742,000 円)	802,000 円 / 585,000 円	
報 酬	議 長	479,000 円 (- 円)	550,000 円 / 347,900 円	
	副 議 長	426,000 円 (- 円)	500,000 円 / 285,100 円	
	常任(運営)委員長	409,000 円 (- 円)	- 円 / - 円	
	議 員	400,000 円 (- 円)	470,000 円 / 268,200 円	
期末手当	市 長 副 市 長	(令和2年度支給割合) 3.35月分		
	議 長 副 議 長 常任(運営)委員長 議 員	(令和2年度支給割合) 3.35月分		
退職手当	市 長	(算定方式) 901,000円 × 在職年数 × 500/100	(1期の手当額) 18,020,000 円	(支給時期) 任期毎
	副 市 長	742,000円 × 在職年数 × 300/100	8,904,000 円	任期毎

(注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。

2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

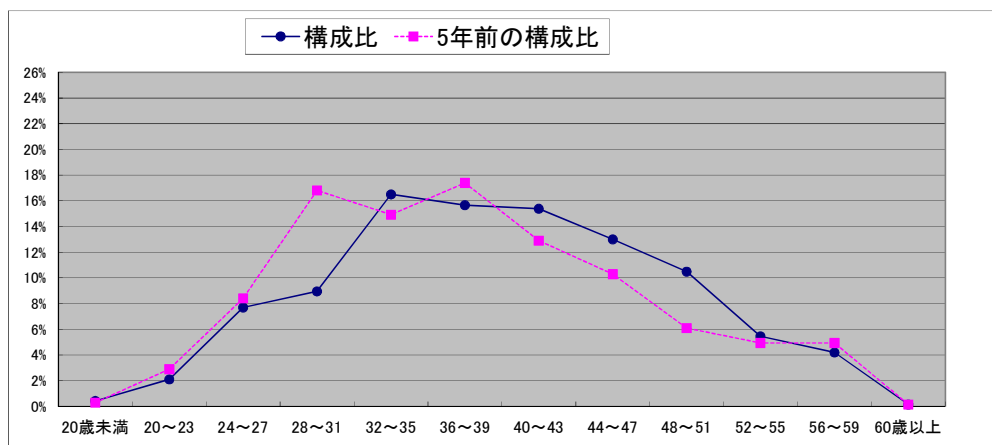
(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在 単位:人)

部門	区分		職員数		対前年増減数	主な増減理由
			平成31年	令和2年		
普通会計部門	一般行政部門	議会	8	8	0	
		総務企画	135	132	△3	西普天間跡地推進室の廃止に伴う減員など
		税務	42	42	0	
		民生	127	130	3	幼児教育・保育無償化(R1.10月～)に伴う業務増への体制強化
		衛生	30	29	△1	退職に伴う定員減
		労働	4	3	△1	業務量に鑑み定員減
		農林水産	3	3	0	
		商工	10	10	0	
	土木	65	67	2	キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地開発に伴う体制強化	
		計	424	424	0	<参考> 人口1万人当たり職員数 42.54 (類似団体の人口1万当たりの職員数 61.67)
	教育部門	118	118	0		
	消防部門	91	91	0		
	小計	633	633	0	<参考> 人口1万当たり職員数 63.50 (類似団体の人口1万当たりの職員数 82.72)	
公営企業等部門	水道	30	29	△1	一時的な欠員(R2.4.22 育休復帰者を配置)	
	下水道	13	13	0		
	その他	40	40	0		
	小計	83	82	△1		
合計		716	715	△1		
		[728]	[728]	[0]		

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。
2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況(令和2年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	3人	15人	55人	64人	118人	112人	110人	93人	75人	39人	30人	1人	715人

(3) 職員数の推移

(単位:人)

部門別	年度	平成22年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	過去5年間の増減数(率)	過去10年間の増減数(率)
一般行政		347	386	390	412	417	424	424	38 (9.84%)	77 (22.19%)
教育		151	138	136	120	118	118	118	-20 (-14.49%)	-33 (-21.85%)
消防		83	86	90	91	93	91	91	5 (5.81%)	8 (9.64%)
普通会計 計		581	610	616	623	628	633	633	23 (3.77%)	52 (8.95%)
公営企業等会計 計		98	80	81	83	81	83	82	2 (2.50%)	-16 (-16.33%)
総合計		679	690	697	706	709	716	715	25 (3.62%)	36 (5.30%)

(注) 各年における総務省定員管理調査において報告した部門別職員数。

7 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 30年度の総費用に占 める職員給与費比率
令和元年度	千円 1,877,964	千円 205,073	千円 158,018	% 8.41	% 8.26

区分	職員数 A	給与費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)団体平均 1人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
令和元年度	人 30	千円 101,465	千円 16,804	千円 39,749	千円 158,018	千円 5,267	千円 6,165

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、令和2年3月31日現在の人数である。
3 資本勘定支弁職員の給与費は、24,824千円である。

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況(令和2年4月1日現在)

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
宜野湾市	40.8歳	296,739円	454,453円
団体平均	44.2歳	339,529円	512,723円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

宜野湾市	団体平均
1人当たり平均支給額(令和元年度) 1,325千円	1人当たり平均支給額(令和元年度) 1,522千円
(令和元年度支給割合) 期末手当 2.6月分 勤勉手当 1.85月分 (-)月分 (-)月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 有(5~15%)	

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当(令和2年4月1日現在)

宜野湾市	団体平均
(支給率) 自己都合 勤続20年 19.6695 月分 勤続25年 28.0395 月分 勤続35年 39.7575 月分 最高限度額 47.709 月分 その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	勤奨・定年 24.586875 月分 33.27075 月分 47.709 月分 47.709 月分
1人当たり平均支給額 0千円 21,729千円	1人当たり平均支給額 8,861千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成27~29年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当(令和2年4月1日現在)

制度なし

エ 特殊勤務手当(令和2年4月1日現在)

支給実績(令和元年度決算)	81千円			
支給職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)	20,355円			
職員全体に占める手当支給職員の割合(令和元年度)	13.30%			
手当の種類(手当数)	4種			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績(令和元年度決算)	左記職員に対する支給単価
水道技術管理者手当	水道技術管理者	水道技術管理者に命じられその職に従事するとき	60,000円	月額 5,000円
暴風雨時勤務手当	職員	暴風雨警報発令時から解除されるまでの間において、特に勤務することを命ぜられたとき	20,000円	1時間 1,000円
特殊現場作業手当	職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所で行う業務に従事したとき	1,420円	日額 220円 (20m以上は320円)
	職員	地表下又は水面下4メートル以上の深所で行う業務に従事したとき	0円	日額 450円

オ 時間外勤務手当		
支給実績	(30年度決算)	6,453千円
職員1人当たり平均支給年額	(30年度決算)	248千円
支給実績	(令和元年度決算)	4,890千円
職員1人当たり平均支給年額	(令和元年度決算)	181千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当(令和2年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	支給実績 (令和元年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (令和元年度決算)
扶養手当	・配偶者 月額 6,500円 ・子 月額 10,000円 ・父母等 月額 6,500円 16歳から22歳の子1人につき5,000円の加算あり	同	4,561千円	285,048円
住居手当	借り受けの場合、最高28,000円	同	4,239千円	385,364円
通勤手当	交通機関等利用者は定期券等の額。限度額55,000円 自家用車は距離に応じて2,300~40,000円	同	1,509千円	72,724円
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員に支給 ・次長級 47,000円 ・課長級 40,000円	同	1,524千円	508,000円

(2) 下水道事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 30年度の総費用に占 める職員給与費比率
令和元年度	千円 1,537,458	千円 129,739	千円 74,958	% 4.88	% 4.78

区分	職員数 A	給与費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)団体平均 1人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
令和元年度	人 13	千円 49,163	千円 6,609	千円 19,186	千円 74,958	千円 5,766	千円 6,134

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、令和2年3月31日現在の人数である。
3 資本勘定支弁職員の給与費は22,941千円である。

② 職員の基本給、平均月取額及び平均年齢の状況(令和2年4月1日現在)

区分	平均年齢	基本給	平均月取額
宜野湾市	37.6歳	281,622円	433,761円
団体平均	43.0歳	337,655円	510,496円

(注) 平均月取額には、期末・勤勉手当等を含む。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

宜野湾市		団体平均	
1人当たり平均支給額 (令和元年度)		1人当たり平均支給額 (令和元年度)	
1,476千円		1,519千円	
(令和元年度支給割合)			
期末手当	勤勉手当		
2.6月分	1.85月分		
(-)月分	(-)月分		
(加算措置の状況)			
職制上の段階、職務の級等による加算措置			
有(5~15%)			

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当(令和2年4月1日現在)

宜野湾市			団体平均	
(支給率)	自己都合	勸奨・定年		
勤続20年	19.6695月分	24.586875月分		
勤続25年	28.0395月分	33.27075月分		
勤続35年	39.7575月分	47.709月分		
最高限度額	47.709月分	47.709月分		
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)			
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円		

ウ 地域手当(令和2年4月1日現在)

制度なし

エ 特殊勤務手当(令和2年4月1日現在)

支給実績(令和元年度決算)	121千円			
支給職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)	17,378 円			
職員全体に占める手当支給職員の割合(令和元年度)	53.85%			
手当の種類(手当数)	3 種			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績(令和元年度決算)	左記職員に対する支給単価
暴風雨時勤務手当	職員	暴風雨警報発令時から解除されるまでの間において、特に勤務することを命ぜられたとき	121,000円	1時間 1,000 円
特殊現場作業手当	職員	地上又は水面上10メートル以上の足場の不安定な箇所で行う業務に従事したとき	0千円	日額 220円 (20m以上は320円)
	職員	地表下又は水面下4メートル以上の深所で行う業務に従事したとき	0千円	日額 450円

オ 時間外勤務手当

支給実績	(30年度決算)	1,496千円
職員1人当たり平均支給年額	(30年度決算)	125千円
支給実績	(令和元年度決算)	1,103千円
職員1人当たり平均支給年額	(令和元年度決算)	100千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当(令和2年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	支給実績(令和元年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(令和元年度決算)
扶養手当	・配偶者 月額 6,500円 ・子 月額 10,000円 ・父母等 月額 6,500円 16歳から22歳の子1人につき5,000円の加算あり	同	2,212千円	276,500円
住居手当	借り受けの場合、最高28,000円	同	1,797千円	256,714円
通勤手当	交通機関等利用者は定期券等の額。限度額55,000円 自家用車は距離に応じて2,300~40,000円	同	617千円	61,650円
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員に支給 ・課長級 40,000円	同	480千円	480,000円